

# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成28年7月号 目次

## 【トピックス】

平成28年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4~6月) .....	1
平成27年度 薬事検査について .....	2
残留農薬検査(その1) .....	4
アレルギー物質を含む食品の検査結果 .....	7

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 6月 .....	8
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	13
---------------------	----

## 平成28年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4～6月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成28年4月から6月の種類同定検査件数は、4件でした。内訳は昆虫類3件(チョウ目1件、カメムシ目1件、ハエ目1件)、その他1件(糞様物質及び昆虫片)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
家屋のベランダ、外壁に複数の毛虫が付着している	 幼虫、黒褐色、約7mm	ヤネホソバ (チョウ目)	背中のこぶにはたくさんの毒のとげがある。刺されると痛く、発疹ができる。関東地方では年3回の発生で、蛹で越冬する。幼虫は屋根がわらや板塀などに生じたコケ類に発生する。
玄関先に多数の虫がみられる	 幼虫、黒緑色、2mm	ソラマメヒゲナガアブラムシ (カメムシ目)	ソラマメ類(カラスノエンドウ等)に寄生する普通種である。春から初夏に多く、寄主植物の茎や葉裏に寄生し、コロニーは大きく、活動的である。
マンション5階部分にコバエが大量に飛来する	 成虫、黒色、2mm	クロバネキノコバエの一種 (ハエ目)	幼虫は植物質、動物質を食する。雑食性で、土中の腐植物中で成育するもの、キノコを食するものなどがある。生息場所は主に屋外であるが、油粕などの有機肥料を施した植木鉢からも発生することがある。
天井から落ちてきた木くずの中に糞のようなものがみられた	 糞様物質、黒色、1mm		複数の昆虫片と糞様の物質をみとめた
	 複数の昆虫片		

# 平成27年度 薬事検査について

平成27年度は健康福祉局医療安全課の依頼により、いわゆる健康食品の試買検査を実施しました。

## ◇ いわゆる健康食品等の検査

「ダイエット」、「痩身」等を標榜している「いわゆる健康食品」8検体について、センナ、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、エフェドリン、プソイドエフェドリン、メチルエフェドリン、ノルエフェドリン、甲状腺ホルモンの検査を行いました。さらに、男性を対象とした製品2検体については、メチルテストステロン、ヨヒンビンの検査も行いました。その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

また、強壮効果を標榜する「いわゆる健康食品」20検体について、シルデナフィル、タダラフィル、バルデナフィル、ホンデナフィル、キサントアントラフィル、チオキナピペリフィル、メチルテストステロン、ヨヒンビンの検査を行いました。その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

## <要注意健康食品シリーズ⑫>

### ～最近の強壮系健康食品中のヨヒンビン検査について～

近年、インターネット等で多種多様の強壮用あるいはダイエット用健康食品が販売されています。その中には、標榜する効果を増大させるために医薬品成分のヨヒンビンが含まれる製品があります。前回シリーズ⑪のおさらいになりますが、ヨヒンビンはヨヒンベ (*Pausinystalia yohimbe*) という植物の樹皮に含まれる成分であり、日本ではヨヒンベ樹皮およびヨヒンビンが「専ら医薬品」の扱いとなっています。当所では、医薬品ではない健康食品中からヨヒンビンを検出し、前回にいくつかの事例を挙げました。

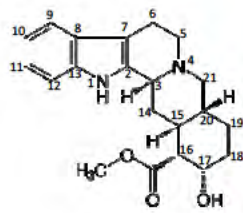
### ☆最近の強壮系健康食品の傾向

最近ではヨヒンビンがごく微量にしか含まれておらず、ヨヒンビンと等しい平面構造をもつヨヒンビン異性体(図)の方が高濃度検出される製品が目立つようになりました。ヨヒンベ中にはヨヒンビンの他、ヨヒンビン異性体も含まれていることがわかっています。ヨヒンビン異性体は医薬品成分の扱いではなく、医薬品以外から検出されても法律上違反ではありませんが、ヨヒンビンに似た薬理作用があるとされ、ヨヒンベの誤った服用における健康被害が危惧されます。過去5年間に医療安全課が試買した強壮系健康食品中のヨヒンビンおよびヨヒンビン異性体の検査を行った結果、ヨヒンビン異性体の方が、ヨヒンビンよりも高濃度検出される製品をいくつか見出しました。

### ☆新しいヨヒンビン異性体の分析法

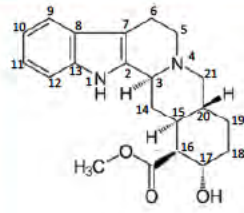
従来の分析方法では、異性体の分離は困難でしたが、当所の研究の結果、ヨヒンビンとヨヒンビン異性体をLC-UV-MS及びGC-MSで分離することが可能となりました(2015年3月に日本薬学会で発表)。本法を用いて分析を行ったところ、ヨヒンビンの異性体であるコリナンチンがヨヒンビンの20倍以上、同じく異性体の $\alpha$ -ヨヒンビンが2.5倍含まれていました。植物のヨヒンベ中のコリナンチンの量は、主成分であるヨヒンビンの約半分、 $\alpha$ -ヨヒンビンは約1/10でした。

ヨヒンビンと類似の薬効を持つヨヒンビン異性体を多く含む健康食品を流通させておくことは、健康危機管理上問題であると考えられ、これからも検査していく必要があります。

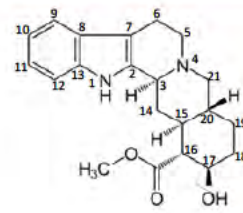


ヨヒンビン

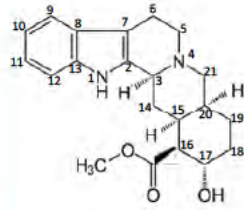
分子式  $C_{21}H_{26}N_2O_3$   
 分子量 M.W. 354.5



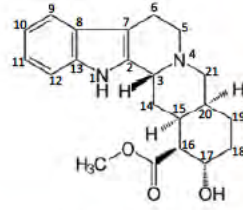
コリナンチン



β-ヨヒンビン



α-ヨヒンビン



イソラウフィン

□はヨヒンビン異性体

図 ヨヒンビンおよび今回分析したヨヒンビン異性体の構造式

※異性体とは・・・

一般的には、同じ分子量で同じ分子式ですが、構造式が異なるものをいいます。

異性体にはいくつか種類があります。1つ目は、結合する原子または分子がお互いに違う構造異性体と、2つ目は、ヨヒンビン異性体のように2次元ではお互い同等に見えますが、3次元空間ではどう動かしても重ね合わせることができない立体異性体があります。

【 理化学検査研究課 薬事担当 】

# 残留農薬検査(その1)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成28年4月から平成28年6月までに食品専門監視班及び各区福祉保健センターから搬入された農産物等の検査結果を報告します。

## 1 市内産農産物

4月に搬入されたトマト(4検体)、にんじん及びほうれんそう(各3検体)、かぶの根及びだいこんの根(各2検体)、キャベツ(1検体)、5月に搬入されたこまつな、さやえんどう及びトマト(各2検体)、きゅうり、さつまいも、だいこんの根及びブロッコリー(各1検体)、6月に搬入されたきゅうり(2検体)、じゃがいも、ズッキーニ、トマト及びレタス(各1検体)の計31検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、きゅうり、こまつな、さやえんどう、ズッキーニ各1検体、ほうれんそう2検体及びトマト3検体から計8種類11項目の農薬が検出されました。このうち、ズッキーニから検出されたホスチアゼート(0.33ppm)は、基準値(0.2ppm)を超えるものでした。

ホスチアゼートは、苗を植える前の土壌全面に均一に散布する農薬のため、散布が不均一であった、又は混和が不十分であった等の可能性があります。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

## 2 国内産農産物

6月に搬入されたキャベツ、じゃがいも、だいこんの根及びにんじん(各1検体)の計4検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、農薬が検出されたものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

### 【農薬解説】

#### ○ホスチアゼート

『ネマトリンエース』などの商品名で販売されている殺線虫剤で、土壌中の線虫に対し高い効果を示します。だいこん、きゅうり、トマト等の農産物に適用があります。

ADI(一日摂取許容量:人が一生涯にわたって毎日食べ続けたとしても、健康に悪影響を与えないと考えられる量)は0.001mg/kg体重/日です。今回ズッキーニから検出された値(0.33ppm)で換算すると、体重50kgの人が、このズッキーニを洗わずに毎日一生涯151g(1/2~1本程度)食べ続けても、健康への影響はないと考えられます。

### ※参考文献

- ・一般社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2016年版

表1 残留農薬検査結果

(H28年4月～H28年6月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>市内産農産物</b>						
かぶの根	横浜市	2	0			
キャベツ	横浜市	1	0			
きゅうり	横浜市	3	1	クロルフェナピル	0.02	0.5
こまつな	横浜市	2	1	クロチアニジン	0.01	10
				シアゾファミド	0.02	15
さつまいも	横浜市	1	0			
さやえんどう	横浜市	2	1	アゾキシストロビン	0.14	3
じゃがいも	横浜市	1	0			
ズッキーニ	横浜市	1	1	ホスチアゼート	0.33	0.2
だいこんの根	横浜市	3	0			
トマト	横浜市	7	3	アゾキシストロビン	0.04	3
				ボスカリド	0.06、0.06	5
にんじん	横浜市	3	0			
ブロッコリー	横浜市	1	0			
ほうれんそう	横浜市	3	2	シアゾファミド	0.19	25
				フルフェノクスロン	0.01	10
				テフルトリン	0.02	0.5
レタス	横浜市	1	0			
<b>国内産農産物</b>						
キャベツ	茨城県	1	0			
じゃがいも	長崎県	1	0			
だいこんの根	千葉県	1	0			
にんじん	千葉県	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	検出			農薬名	検出 限界 (ppm)	検出		
		A*1	B*1	C*1			A	B	C
BHC ( $\alpha, \beta, \gamma$ 及び $\delta$ の和)	0.005	○*2	-*2	-	カフェンストール	0.01	○	○	○
DDT (DDE, DDD, DDT の和*3)	0.005	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	クミルロン	0.01	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	クロマフェナジド	0.01	○	○	○
アニロホス	0.01	○	○	○	クロリダゾン	0.01	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	クロルフェンゾン	0.01	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	クロロクスロン	0.01	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	シアゾファミド	0.01	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	シアノフェンホス	0.01	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	シアノホス	0.01	○	○	○
エンドスルフアン ( $\alpha$ 及び $\beta$ の和)	0.005	-	○	-	ジウロン	0.01	○	○	○
エンドリン	0.005	-	○	-	ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○
オキシカルボキシ	0.01	○	○	○	ジコホール	0.01	○	○	○
オリザリン	0.01	-	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○
カズサホス	0.01	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C	農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C
シフルトリン	0.01	-	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	-	フェントエート	0.01	○	○	○
シペルメトリン	0.01	-	○	○	フェントラザミド	0.01	○	○	○
ジメチリモール	0.01	-	-	○	フェンバレレート	0.01	-	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	-	○	○
スルプロホス	0.01	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	-	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	ブタミホス	0.01	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	フラメピル	0.01	○	○	○
チアトキサム	0.01	○	-	○	フルシトリネート	0.01	-	○	○
テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	フルバリネート	0.01	-	○	○
テトラジホン	0.01	○	○	○	フルフェナセット	0.01	○	○	○
テブチウロン	0.01	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○
トラルコキシジム	0.01	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	プロピザミド	0.01	-	○	○
トリフルムロン	0.01	○	○	○	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-
ノバルロン	0.01	-	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○
ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	ペントキサゾン	0.01	○	-	-
ピラゾリネート	0.01	-	-	○	ボスカリド	0.01	○	○	-
ピリフタリド	0.01	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○
ファモキサドシ	0.01	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○
フェントロチオン	0.01	○	○	○	メビンホス	0.01	○	○	○
フェノキシカルブ	0.01	○	○	○	モノリニューロン	0.01	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	-
フェリムゾン	0.01	○	-	-	リニューロン	0.01	○	○	○
フェンアミドン	0.01	○	○	○	リンデン( $\gamma$ -BHC)	0.002	○	○	○
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	-	○	○

\*1 A:こまつな、さやえんどう、ズッキーニ、トマト、にんじん、ブロッコリー、ほうれんそう

B:かぶの根、キャベツ、きゅうり、だいこんの根、レタス

C:さつまいも、じゃがいも

\*2 ○:実施、-:実施せず

\*3 DDTは $p,p'$ -DDE、 $p,p'$ -DDD、 $o,p'$ -DDT及び $p,p'$ -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】



# アレルギー物質を含む食品の検査結果

現在、アレルギーの原因となることが知られている原材料のうち、7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品等にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。

平成28年5月に健康福祉局食品専門監視班が市内の食品製造所にて収去した食品について、卵、乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

## 1 卵の検査

市内の食品製造所から収去した原材料に卵を使用していない食品について、卵の検査を20検体行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

食品	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
穀類加工品(麺、餃子の皮等)	13	0
パン類及びその生地	4	0
焼菓子及びその生地	2	0
そうざい類	1	0
合計	20	0

## 2 乳の検査

市内の食品製造所から収去した原材料に乳を使用していない食品について、乳の検査を4検体行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

食品	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
菓子類	2	0
そうざい類	1	0
めん類	1	0
合計	4	0

※ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルギー)を検出する方法ですが、食品の加工度合いや使用原材料によっては、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行っています。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。

## 横浜市感染症発生動向調査報告 6月

### 《今月のトピックス》

- ジカウイルス感染症(輸入例)の報告が1件ありました。
- 咽頭結膜熱の報告が例年より多くなっています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 流行性角結膜炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。

### 全数把握の対象

#### 【6月期に報告された全数把握疾患】

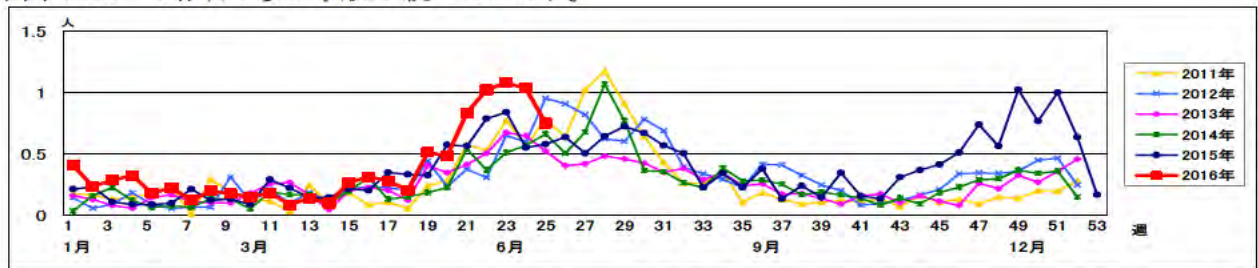
腸管出血性大腸菌感染症	7件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件
E型肝炎	1件	急性脳炎	3件
A型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
ジカウイルス感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
ボツリヌス症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
マラリア	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	13件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	4件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	15件
ウイルス性肝炎	1件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が5件、O115が1件、O26が1件報告されています。O157のうち2件は同居家族です。
- 2 E型肝炎: 1件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- 3 A型肝炎: 2件の報告があり、いずれも感染原因は不明で、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 4 ジカウイルス感染症: 中南米の流行地域での蚊の刺咬歴のある帰国者で1件の報告がありました。
- 5 ボツリヌス症: 4か月の乳児で1件の報告があり、感染経路は不明です。
- 6 マラリア: 2件の報告があり、それぞれウガンダ、ガーナからの帰国者でした。
- 7 レジオネラ症: 2件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 8 アメーバ赤痢: 4件の報告があり、2件は国内での性的接触が推定され、2件は感染経路等不明でした。
- 9 ウイルス性肝炎: 1件のB型の報告があり、中国での性的接触によるものと推定されます。
- 10 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告があり、うち5件は以前からの保菌で、2件はドレーン、手術部位からの感染と推定されます。
- 11 急性脳炎: 3件の乳幼児の報告がありました。いずれも病原体不明です。
- 12 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群が1件、G群が1件報告され、創傷感染が推定されています。
- 13 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が同性間の性的接触にて1件、無症状病原体保有者の報告が同性間の性的接触にて2件、その他の報告が感染経路等不明にて1件ありました。
- 14 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 2件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 15 侵襲性肺炎球菌感染症: 乳児は1件の報告がありワクチンは4回目が未接種、幼児は3件の報告があり4回のワクチン接種歴が確認されました。高齢者は6件の報告があり、うち2件はワクチン接種歴が確認されましたが、4件についてはワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 16 水痘(入院例に限る): 小児の報告が2件、成人の報告が2件ありました。
- 17 梅毒: 15件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)があり、うち12件が国内感染例で、3件は感染地域不明でした。感染経路は11件が性的接触、4件が感染経路不明でした。

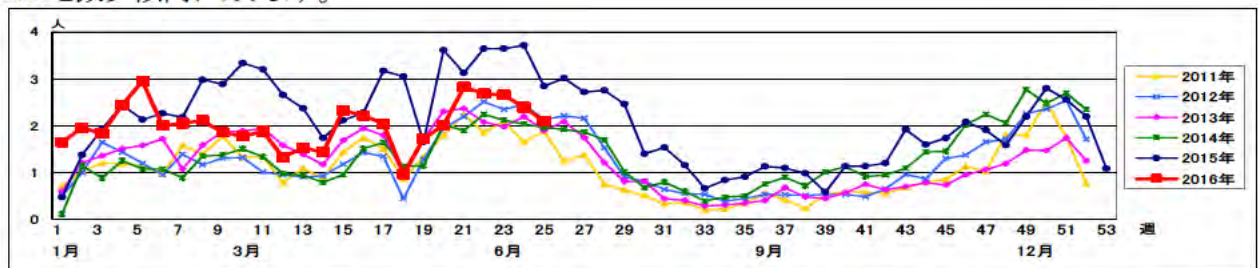
## 定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第22週	5月30日～6月 5日
第23週	6月 6日～6月12日
第24週	6月13日～6月19日
第25週	6月20日～6月26日

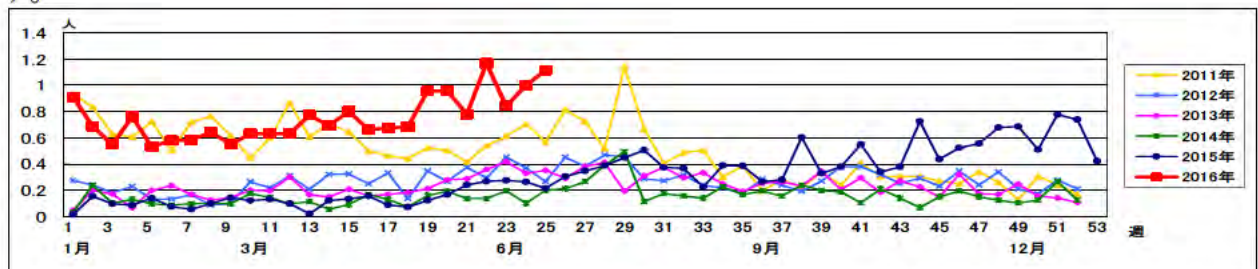
- 1 咽頭結膜熱:第23週で定点あたり1.08をピークとして推移しています。例年に比べて報告が多い状況が続いています。



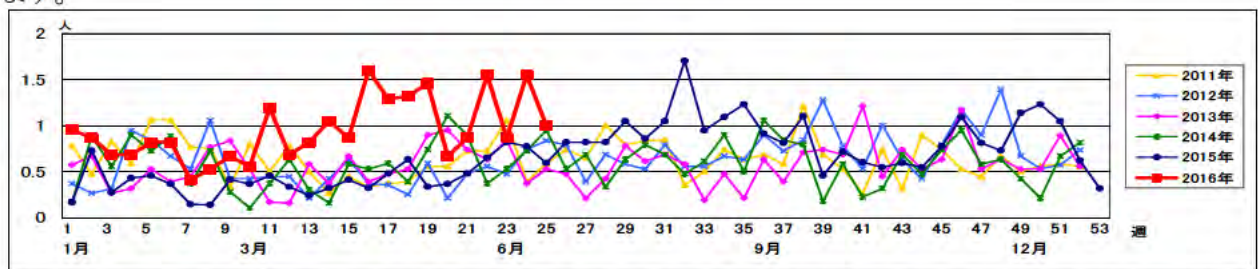
- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第21週で定点あたり2.82でしたが、その後、第24週で2.39、第25週で2.10と減少傾向にあります。



- 3 流行性耳下腺炎:第25週で定点あたり1.11と例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 流行性角結膜炎:第24週で定点あたり1.55、第25週で1.00と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



- 5 性感染症:5月は、性器クラミジア感染症は男性が30件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が8件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が1件でした。
- 6 基幹定点週報:無菌性髄膜炎は第24週0.25と今年初めて報告がありました。マイコプラズマ肺炎は第22週0.50、第23週0.33、第24週0.50、第25週0.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第22週0.50、第23週1.00、第24週0.25、第25週0.33と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報:5月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症2件、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件、内科定点8件、眼科2件、基幹定点4件で、定点外医療機関からは5件でした。

7月8日現在、ウイルス分離8株と各種ウイルス遺伝子33件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(6月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 *2	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 脳 炎 ・ 脳 症	パ レ コ 感 染 症
インフルエンザ B型山形系統			1							
アデノ NT*3	1	1	1		1					
アデノ 2型				1						
アデノ 4型				1						
パラインフルエンザ 1型	1									
パラインフルエンザ 3型	1 3	1								
RS	1									
ヒトメタニューモ	1	1								
ヒトコロナ*4	1									
ヒトボカ	1		1				1			
ムンプス								2		
ライノ	1	2			1		1			
コクサッキー A 2型	1				1		1			
コクサッキー A 4型	1						3			
コクサッキー A 5型	1									
コクサッキー A 6型						1	1			
コクサッキー B 5型									2	
エコー 9型	1								2	
パレコ 3型									2	
合計	1 14	0 5	1 2	2 0	0 3	0 1	0 7	2 0	2 0	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:アデノ感染症を含む、\*3:型未同定、\*4:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

6月の感染性胃腸炎は、基幹定点から6件、その他が11件で、腸管出血性大腸菌(O26:H11,VT1が1件、O115:H-,VT1が1件、O157:H7,VT1&2が2件)、サルモネラ(*S. Chester*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から3件、その他から22件でした。その他のA群溶血性レンサ球菌T1型は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。ボツリヌス菌はB型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(6月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	6月			2016年1月～6月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		0	6	11	0	42	23
赤痢菌						1	
腸管出血性大腸菌				4	2	5	
チフス菌					2		
サルモネラ			1		9	2	
カンピロバクター						1	
黄色ブドウ球菌			1		1		
不検出		0	4	7	0	28	14

その他の感染症

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	6月			2016年1月～6月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		4	3	22	24	32	200
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		1	3	1	
	T4	1			2		
	T6				1		
	T12				3	1	
	型別不能	2			11	2	
B群溶血性レンサ球菌						1	
G群溶血性レンサ球菌					2	1	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4		
バンコマイシン耐性腸球菌						1	
レジオネラ属菌						1	
インフルエンザ菌				2		3	
肺炎球菌				3	5	38	
黄色ブドウ球菌					1		
結核菌						103	
百日咳菌					1		
ボツリヌス菌				1		1	
その他			2	9	9	22	
不検出		0	1	6	3	11	25

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成28年6月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成28年6月)

平成28年6月の総アクセス数は、91,667件でした。主な内訳は、感染症情報センター68.8%、保健情報8.3%、食品衛生4.4%、検査情報月報4.0%、生活環境衛生3.1%、薬事0.8%でした。

### (2) アクセス順位 (平成28年6月)

6月のアクセス順位(表1)

表1 平成28年6月 アクセス順位

は、第1位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」でした。

6月の総アクセス数は、前月に比べ約1%増加しました。アクセス順位を見ると、感染症関連の項目が多数を占めています。1位のクロストリジウム-ディフィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。3位のB群レンサ球菌(GBS)感染症は、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。9位の大麻(マリファナ)については、有名人による大麻等の使用が、報道等で話題となり、アクセス数の増加に繋がったと考えます。

順位	タイトル	件数
1	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,962
2	衛生研究所トップページ	3,164
3	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,870
4	横浜市感染症情報センター	2,210
5	EBウイルスと伝染性単核症について	2,115
6	エンテロウイルスについて	1,851
7	ライノウイルスについて	1,685
8	サイトメガロウイルス感染症について	1,577
9	大麻(マリファナ)について	1,458
10	A群溶血性連鎖球菌感染症について	1,421

データ提供: 市民局広報課

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「衛生研究所トップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成28年6月）

平成28年6月の問い合わせは、0件でした。

2 追加・更新記事（平成28年6月）

平成28年6月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表2)。

表2 平成28年6月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
6月15日	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	更新
6月15日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)【速報版】	掲載
6月16日	狂犬病およびリッサウイルス感染症について	更新
6月20日	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査結果	掲載
6月23日	腸チフス・パラチフスについて	更新
6月24日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】